



税の作文紹介

有田地方租税教育推進協議会会長賞

■税金を通じた思いやり

耐久中学校 3年 嘉藤 稜士

去年の秋、僕が二年生だった頃職場体験で地元の介護福祉施設に行った。そこにはたくさんの高齢者の方が入居していた。そこではリハビリや食事介助、お風呂に入ることさえもサポートしていた。僕はそこでその仕事について学ぶとともに、どのような仕組みで、こんな良いサービスが実現しているのだろうか疑問に思った。

そこで調べてみると、それらのサービスに必要なお金は税金から出ていることが分かった。平成三十年度の歳出総額は九十七兆七千二百二十八億円で、そのうち三十三・七パーセントに当たる約三十三兆円もの税金が社会保障のために当てられていた。介護に必要な、施設を建てるお金や、そこで働く人の給料などはこの社

会保障に含まれるそうだった。さらにこんなデータもあった。社会保障を成り立たせている働き手がどんどん減少しているそうだった。高齢者一人に対する働き手の人数が二千年では三・六人にだったのが、今後二五年には一・八人、ちょうど半分になり、二五十年には一・二人、三分の一になると予想されている。当然働き手が減れば税金の歳入も減少する。それを防ごうと税金を高くすれば働き手一人当たりの負担は大きくなる。

僕はこのデータを知って、今後僕が職場体験で会ったような高齢者の人たちが公共サービスを受けるのが難しくなることを想像し、なんとかしないといけないと感じた。なんとかするために僕はだれでもできることが一つあると思う。それは税金の重要性をしっかりと理解し、税金による公共サービスを受ける態度を考えること

だ。全国から人の思いやりが税金として集まり、それを学生や高齢者をはじめ国民全員のために使われる。税金を思いやりと考えることができれば公共の物、例えば道路、学校、病院、これらの誰かの思いやりの結晶を大切に使うと思うはずだ。しかし、自分はまだ税金の恩恵を受けていないと感じている人たちがいるだろう。もしそんな人がいれば理解して欲しい。自分が普段気づかないうちにどれだけ思いやりが助けられているのかを、またこれから先どれだけ思いやりが助けられるのかを。

有田納税貯蓄組合連合会会長賞

■私たちの大切な税

耐久中学校 3年 赤土 麿人

みなさん、税と聞いてまず思い浮かぶものは何でしょうか。

中学生である私は、すぐに「消費税」を思い浮かべます。「消費税」とは、物やサービスを消費するたびにかけられる間接税です。現在は消費税は八パーセントで、来年には十パーセントに引き上げられる予定です。また、消費税は国の税収の約十分の一の割合を占める重要なものです。

他にも、「所得税」「法人税」「固定資産税」「自動車税」など、日本には約五十種類もの税があるそうです。しかし、税の使い道やその必要性についてはあまりよく知られていません。この事が、税に対するマイナスイメージを大きくしているのだと思います。



では、一体どうすればよいのでしょうか。

まず初めに、身の回りに当たり前のようでありすぎて、特別なものという認識が低下している事にあると思います。例えば、警察や病院、道路、信号、どれも私たちの生活にとっても密着しています。そして、どれ一つ欠けても私たちは安心して豊かな生活を送ることはできません。しかし、そのどれもが当たり前すぎて気付いていないのです。

次に、色々な税収が何に使われているか分かっていても、自分に関係ないものには全く関心を持たないことです。例えば、車を乗らない人からすれば、自動車税の意味や使われ方には興味を持たないだろうし、土地を持たない人には固定資産税は関係ないと思うと思います。でも、唯一消費税だけは子供から大人までみんなが毎日関わり、一番生活に密着しているため、その事にばかり固執しすぎています。

今、皆さんに伝えたい事は、消費税はたくさんある税の一部にしかすぎないのです。それだけでは、私たちは安心して豊かな生活を送ることはできません。色々な税が

あつて、色々なものに使われ、初めて私たちは安心して生活を送ることができるようです。

私たち中学生は、今はまだ支えるよりも、周りの大人たちに支えられている事の方が大きいと思います。でも、大人になった時、誰かを支えられるように、一人の納税者になれるように、今は一生懸命勉強したいと思っています。

みなさんも一度、家族で税について話し合ってみてはどうでしょうか。今よりもっと、税についての理解を深め、税の大切さに気付くと思えますよ。



近畿税理士会湯浅支部長賞

■税金の大切さ

耐久中学校 3年 中野 友暁

税金って知らないんじゃないか、そう考えるときがときどきある。特に消費税についてはそう強く感じていた。なぜなら税金がどのように使われているかあまり知

らなかつたからだ。でも、僕の父が事故にあつて救急車に運ばれたことによつて、その考え方がだんだん変わつていった。何故なら父が救急車に運んでもらつても、お金を取られなかつたからだ。もう三年ほど前のことだったが鮮明に覚えている。事故発生同時は僕自身もあわてていて、何が起つているのかあまりわかつていなかった。しかし、父は大丈夫だと思つて新しい疑問が出てきた。それは救急車を呼ぶのにお金は要らないのかという疑問だ。それから救急車に税金が使われていたことを知り、もっと調べてみたいと思うようになった。

まず、税金に多くの種類があることを知つた。個人の給料にかかると「所得税」、会社などにかかる「法人税」などだ。そして驚くことに国の収入は百兆円近くあり、その約六十パーセントが税金によるものだという。僕は百兆円どころか十兆円もそうそう見ることができない。そう考えるとどんなに大きな数字がよくわかる。

さて、こんなに巨額なお金はどう使われているのか。調べてみると僕たちの生活のとても身近なところで使われていることがわ

かつた。身近なところとは、学校での教育費や消防車や救急車をよぶための費用、ゴミ処理の費用などだ。さらに教育費について調べてみると、中学生だと約百万円負担してもらつていられるらしい。負担してもらつてもらつていなくても十万円くらいしかでかからないと思つていたのでかなり驚いた。

これまで僕はあまり税金について知ろうとしていなかった。しかし、今回税金について調べてみて、さまざまな種類があること、そしていろいろなお金に使われていることを知ることができた。

でもこんな税金にも問題点がある。それは税金を多く払う働き手の数が減つていて、逆に高齢者の人口が増え、社会保障の費用が増えていることだ。少子高齢化がいろいろなお金で問題になっているが、税金に関しても同じらしい。

また、脱税という許されないことをしている人もいる。僕は税金の重要性・大切さを知っているのに絶対にはしない。大人になつたらきちんと税金を納めたい。税金を納めることは巡り巡つて自分に帰ってくるので税金を正しく納めたい。